

四育英生に辞令交付

横浜善光寺留学僧育英会

（黒田武志理事長）

は第十二回総会と第十四回育英生の四人に対する辞令交付式を二月七日、善光寺で執り行なった。総会ではニューヨーク州立大学教授の伊東博氏が「国際化への反論」と題して卓話を行なった。

総会は阿部慈園参与を議長に選んで進められ、新しく育英生に採用されたウィリアム・隆賢・ダンカン、ホアン・トロン・ソウ、小田島巖雄、眞野順治の四氏のうち、すでにタイ国ワ

ットパクナムに留学している眞野氏を除く三人が自己紹介を兼ねて育英生としての抱負を語った。

卓話の伊藤教授は、善光寺の黒田理事長とは栃木県の大田原高校で同級。「国際化への反論」というテーマは、甲乙どちらかの国が勝ち、どちらかが負けるといふ国際化ではなく、そうした国益を超越して民族の利益を考へるべき時代であるという意味での設定。伊藤教授は、どの国も共にプラスになるように、地球規模で物事



育英生の皆さま

本尊上供



を考え行動すべき時代であることを訴えた。

議事では、育英会の創立十五周年記念講演の日程や論文集第三巻の発刊が発表され、新しく大本山總持寺貫首に就任した板橋興宗禅師を名誉顧問に推戴することが了承された。

激励「初心忘れず誓願成就を」

第二部は開山棟庵白純大和尚の開山忌と、同夫人の安徳院殿嘉祥妙慶禅尼の七回忌の法要



黒田理事長

が、善光寺の本寺である栃木県大田原市・光真寺住職黒田俊雄老師の導師で営まれ、引き続き黒田理事長の導師で本尊上供の後、第十四回育英生の一人一人に黒田理事長から辞令と育英金、及び記念品が手渡された。

黒田理事長は「初心を忘れず誓願を成就していただきたい。そして皆さんの力で世界平和を実現して下さい」と期待の言葉を述べ、小田原市の成願寺住職山口晴通師は「善光寺さまの大きな心のもとに、法灯は海を渡り、また海に向こうから渡って来る。大きな菩提の花を咲かせて下さい」と激励した。

さらに光真寺の黒田住職は「善光寺の方丈(住職)は利他行の人だ。利行は一法なりというが、人に尽くすことがこれからの道だと思っっている」と挨拶した。

